



日本語能力試験の語彙について

中西, 泰洋

(Citation)

神戸大学留学生センター紀要, 13:79-86

(Issue Date)

2007-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00523045>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00523045>



日本語能力試験の語彙について

中 西 泰 洋

キーワード：語彙、語種、日本語能力試験、出題基準

1. はじめに

1996年、留学生センターの日本語教育プログラムの「総合日本語コース」（当時は「研修日本語コース」）に「日本語特別演習」（現在は「日本語特別演習Ⅱ」）という授業科目が設定された。このコースは、いわゆる課外補講という位置づけの日本語授業であり、本学に在籍する留学生が日本語能力の増強のために設けられているものである。また、同コースの受講生は私費の研究留学生が中心であり、大学院入試を目指して日本語能力を伸ばそうとする学生のニーズに配慮したカリキュラムとなっている。上記の授業科目も入学の日本語要件である日本語能力試験1級の合格を目標としたものである。これまでに、この授業科目の履修学生から多くの合格者も出している。

筆者は今日まで「日本語特別演習Ⅱ」を担当し、院試のために日本語能力試験1級を突破しようとする留学生を指導してきた。その指導において、日本語表現の中で多用される表現語彙で形成される言語表現形式の習得が重要であることを痛感するようになった。授業では市販の問題集や過去の試験問題を教材としながら、表現語彙のネットワーク（「日本語の表現語彙のネットワークについての一考察」日本総合学会『総合学会誌第3号』2004年を参照）に焦点を当てた語彙指導に力を注いできた。この授業は、幸いにも多くの受講生から高い支持を得ている。

日本語学習者にとって必要な語彙とは何かを規定するのは難しい問題である。しかしながら、一般的には、初級段階では身近な日常生活でよく使われる具体的な事物を表す和語で構成された語彙が中心となり、中級段階以降は学習が進むにつれて精神生活におよぶ抽象的な事物を表す漢語で構成された語彙が多くなると考えられている。

ここに『日本語能力試験出題基準【改訂版】』（国際交流基金 財団法人 日本国際教育協会 著作・編集 凡人社2002年）がある。同書は試験問題を作成する場合は語彙レベルを判断するために参考にすることはあっても、普段はあまり見ることもないものであるが、この度は初心に返って、その語彙について調べてみようと考えた。日本語能力試験の出題基準として、4級から1級までレベル別に語彙が提示さ

れているので、どのような語種の語彙がどのような割合で含まれているのかについて、級別に調べてみた。語種については一般的な分類に従って和語、漢語、外来語、混種語の４種類とした。また、どのような意味内容を有する語彙なのかについても考察することにする。

２．日本語能力試験出題基準の語彙について

４級から１級までの出題基準の語彙を語種別にまとめると次の表ようになる。

級 別	和 語	漢 語	外来語	混種語	合 計
４ 級	432 63.62%	153 22.53%	56 8.25%	38 5.60%	679 100%
３ 級	804 61.14%	334 25.40%	75 5.70%	102 7.76%	1315 100%
２ 級	2174 44.98%	2181 45.13%	323 6.68%	155 3.21%	4833 100%
１ 級	3180 40.77%	3831 49.11%	528 6.77%	261 3.35%	7800 100%

(注：数字は語種別の語数を示し、％は各級別の総語数に占める割合を示す。)

これを見ると、いわゆる初級レベルである４級と３級の語彙は和語が60％以上を占めており、和語の習得に重点が置かれていることが分かる。漢語については20％を超えており、４級よりも３級の方が３％ほど増えている。この差は、ちょうど４級と３級における和語の割合の差とほぼ合致している。外来語の割合については４級よりは３級の方が少なくなり、混種語については逆に４級よりも３級の方が多いになっているが、両者の全体に占める割合は各級共に約14％である。

中級レベルである２級の語彙は、和語と漢語の割合がほぼ拮抗しており、両者の全体に占める割合は90％を少し超えている。初級レベルと比べて、和語よりも漢語の習得に重点が移っていることが分かる。また、外来語と混種語については、両者の全体に占める割合は約10％で、３級と比べて外来語は少し増加しているが、混種語は半分以下に減少している。

上級レベルである１級の語彙は、和語よりも漢語の割合の方が多く、両者の全体に占める割合は90％を少し超えている。中級レベルと比べて、更に漢語の習得に重点が置かれていることが分かる。また、外来語と混種語については、２級とほぼ同じ

割合である。

以上、初級から上級までの語彙について概観したが、次は級別に見ていくことにする。

《4級の出題基準語彙について》

4級の語彙の出題基準は、原則として分類した679語を含む800語とされている。上の表にあるように、その679語は和語が432語（63.62%）、漢語が153語（22.53%）、外来語が56語（8.25%）、混種語が38語（5.60%）であった。60%を超える和語と20%を超える漢語が中心であり、外来語と混種語とで15%弱となっている。

〈例〉

和語：ああ、会う、青い、赤い、明るい、秋、開く、開ける、上げる、朝、あさって、足、あした、あそこ、遊ぶ、暖かい、頭、新しい、あちら、暑い、熱い、厚い、後、あなた、兄、姉、あの、あびる、危ない、甘い、あまり、雨、洗う、ある、歩く …

漢語：医者、椅子、一日、一番、一緒、意味、映画、映画館、英語、鉛筆、音楽、外国、外国人、会社、階段、学生、家族、学校、家内、花瓶、漢字、喫茶店、九、牛肉、牛乳、教室、兄弟、去年、銀行、結構、玄関、元気、五、公園、交番、午後 …

外来語：アパート、エレベーター、カメラ、カレンダー、ギター、キログラム、キロメートル、クラス、グラム、コート、コップ、シャツ、スカート、ストーブ、スプーン、スポーツ、ズボン、スリッパ、セーター、ゼロ、タクシー、たばこ、テープ …

混種語：朝御飯、大勢、お菓子、お茶、おばあさん、お弁当、火曜日、切符、金曜日、結婚する、月曜日、散歩する、仕事、死ぬ、水曜日、掃除する、大好き、台所、誕生日、茶色、友達、土曜日、とり肉、日曜日、荷物、平仮名、昼御飯、豚肉 …

以上は一部の例であるが、4級の語彙は、語種に関わらず身近な日常生活において用いられる語彙ばかりであり、具体性を持ったものであると言える。

《3級の出題基準語彙について》

3級の語彙の出題基準は、原則として分類した1315語を含む1500語とされている。上の表にあるように、その1315語は和語が804語（61.14%）、漢語が334語（25.40%）、

外来語が75語（5.70%）、混種語が102語（7.76%）であった。4級と同様に、60%を超える和語と20%を超える漢語が中心であり、外来語と混種語とで15%弱となっている。

〈例〉

和語：あ、間、合う、あかちゃん、上がる、空く、あげる、味、あす、遊び、集まる、集める、謝る、あんな、生きる、石、いじめる、急ぐ、致す、いただく、糸、田舎、祈る、いらっしゃる、植える、伺う、受付、受ける、動く、うそ、打つ …

漢語：安全、以下、以外、医学、意見、以上、一度、一生懸命、以内、運転手、応接間、億、屋上、海岸、会議、会場、会話、科学、学部、火事、関係、看護婦、簡単、気、機械、機会、危険、汽車、技術、季節、規則、気分、客、急行、教育、教会 …

外来語：アルバイト、エスカレーター、オートバイ、オーバー、カーテン、ガソリン、ガソリンスタンド、ガラス、コンサート、サンダル、サンドイッチ、ジャム、スーツケース、ステレオ、タイプ、テキスト、テニスコート、ビル、プレゼント、ベル …

混種語：挨拶する、赤ん坊、朝寝坊、安心する、案内する、如何、運転する、運動する、遠慮する、お嬢さん、お宅、お礼、彼女、頑張る、気持ち、急に、競争する、具合、計画する、経験する、下宿する、決して、喧嘩する、研究する、見物する …

以上の例からも分かるように、3級の語彙は4級の語彙と同じように語種に関わらず身近な日常生活において用いられる語彙ばかりであり、自己の生活を中心として具体性を持った生活範囲の広がりを表現するものであると言える。

《2級の出題基準語彙について》

2級の語彙の出題基準は、原則として分類した4833語を含む6000語とされている。上の表にあるように、その4833語は和語が2174語（44.98%）、漢語が2181語（45.13%）、外来語が323語（6.68%）、混種語が155語（3.21%）であった。40%を超える和語と漢語とが中心であることには変わりがないが、4・3級に比べて和語と漢語の割合が逆転しており、外来語と混種語とで10%弱となっている。

〈例〉

和語：相手、遭う、扇ぐ、青白い、諦める、飽きる、あきれる、あくび、飽くまで、

明方、憧れる、浅い、足跡、悪しからず、足元、味わう、預かる、預ける、汗、与える、温まる、暖める、辺り、当たり前、当たる、あちこち、扱う、厚かましい …

漢語：挨拶、愛情、曖昧、握手、悪魔、圧縮、案、安易、案外、暗記、安定、胃、委員、意外、意義、育児、以後、以降、医師、意思、維持、意識、異常、衣食住、以前、偉大、位置、一応、一時、一部、一流、一家、一昨日、一昨年、一種、一瞬 …

外来語：アイスクリーム、アイデア、アイロン、アウト、アクセサリー、アクセント、アジア、アナウンサー、アフリカ、アメリカ、アルバム、アンテナ、イコール、イメージ、インク、インタビュー、ウイスキー、ウーマン、ウール、ウェートレス …

混種語：合図、愛する、幾分、意地悪、一段と、一度に、威張る、絵の具、王様、応じる、お気の毒に、送り仮名、お元気で、お辞儀、お邪魔します、お世話になりました、お大事に、御中、掛算、感じ、感じる、関する、勘違い、缶詰、気の毒 …

以上の例からも分かるように、2級の語彙は4級や3級の語彙と比べて、日常生活の精神的な面で用いられる語彙が多くなり、他者との関係で自己の生活を取り巻く生活範囲の拡大に対応して用いられる語彙も増え、抽象性をも表現できるものであると言える。

《1級の出題基準語彙について》

1級の語彙の出題基準は、原則として分類した7800語を含む10000語とされている。上の表にあるように、その7800語は和語が3180語（40.77%）、漢語が3831語（49.11%）、外来語が528語（6.77%）、混種語が261語（3.35%）であった。2級と同様に、40%を超える和語と漢語とが中心であることには変わりがないが、漢語の割合がほぼ半数に迫っており、外来語と混種語とで10%強となっている。

〈例〉

和語：間柄、合間、敢えて、仰ぐ、垢、明かす、赤らむ、上がり、諦め、あくどい、顎、憧れ、麻、あざ、浅ましい、欺く、鮮やか、嘲笑う、味わい、焦る、褪せる、値する、当り、扱い、あっけない、あっさり、詠える、宛てる、跡継ぎ、後回し …

漢語：愛想、悪化、斡旋、圧倒、圧迫、圧力、暗殺、暗算、暗示、安静、異、意、

医院、異議、育成、異見、意向、移行、意地、移住、衣装、異性、遺跡、依然、依存、委託、一同、一部分、一別、一面、一目、一様、一律、一連、一括、一気、一見 …

外来語：アクセル、アップ、アプローチ、アマチュア、アラブ、アルカリ、アルコール、アルミ、アワー、アンケート、アンコール、イエス、インターチェンジ、インターナショナル、インターフォン、インテリ、インフォメーション、インフレ …

混種語：赤字、当て字、雨具、案じる、案の定、意気込む、幾多、一概に、一挙に、浮気、縁側、演じる、お産、お世辞、害する、箇条書き、株式、気兼ね、気軽、気障、気立て、興じる、禁じる、黒字、煌々と、焦げ茶、御座います、指図、察する …

以上の例からも分かるように、日常の生活範囲の広がりの中で対人関係も複雑になり、精神的な面でも深まり、それに対応するように2級の語彙よりも更に詳細に表現できるものであると言える。

3. おわりに

日本語能力試験の出題基準として挙げられている語彙について概観してきたが、一般的に考えられているように、初級（4・3級）においては和語が核となっており、中級（2級）においては和語と漢語が拮抗し、上級（1級）においては和語よりも漢語の方が核となっている。

特に、中級以降については、和語よりも漢語の方が造語力があり、例えば「漢語＋する」等で混種語を多く生み出すことを考えれば、日本語能力にとって漢語力の養成の重要性が改めて確認された思いである。

現在、筆者は「日本語の表現語彙のネットワークに着目した語彙指導」を研究テーマとし、表現語彙のネットワークと初級の基本文型との組み合わせによる「日本語の基本表現モデル」を作成中であるが、今後は日本語能力試験の出題基準の語彙についても考慮に入れていこうと思う。

また、今回の分類作業を通じて思ったのは、語種別に分けることが予想外に難しく、自己の日本語に対する見識の程度を反省させられたことである。

〔分析資料〕

『日本語能力試験出題基準【改訂版】』国際交流基金（財）日本国際教育協会 著作・編集 凡人社2002年

A Study on the Vocabularies of the Japanese Language Proficiency Test

NAKANISHI Yasuhiro

The objective of this paper is to consider the vocabularies of the Japanese Language Proficiency Test. This test has four levels. There are from level 4 to level 1. The Japanese language has commonly four kinds of word. There are native Japanese words, Chinese origin words, loanwords and hybrid words.

The vocabularies of the test of level 4 have native Japanese words (63.62%), Chinese origin words (22.53%), loanwords (8.25%) and hybrid words (5.60%).

The vocabularies of the test of level 3 have native Japanese words (61.14%), Chinese origin words (25.40%), loanwords (5.70%) and hybrid words (7.76%).

The vocabularies of the test of level 2 have native Japanese words (44.98%), Chinese origin words (45.13%), loanwords (6.68%) and hybrid words (3.21%).

The vocabularies of the test of level 1 have native Japanese words (40.77%), Chinese origin words (49.11%), loanwords (6.77%) and hybrid words (3.35%).